

田原市まち・ひと・しごと創生連携会議 委員意見要旨（第2回）

（1）人口に関する考え方について

- ・ヨーロッパでは、人口が減少する際には割り切ってダウンサイズして、質を上げることを考える。日本では、質の話は置き去りになってしまっている。田原市では人口が減少しても質を上げることを考えていく方が合っていると思う。
- ・マスタープランでも調整区域の集落に拠点を移すような話が出ているため、田原、福江、赤羽根の拠点ごとの人口の推移も把握しておく方が良いであろう。

（2）総合戦略の概要、基本方針について

1) 雇用の創出・就労促進について

- ・行政と連携して、やめたくてもやめられない事業者の事業継承等の支援を行う廃業支援を含めた創業支援をしていきたい。廃業支援ではその事業所の技術や顧客等の活かせるものがあれば、それを分割してでも別の引受先やこの地域の他業者に移行できればと考えている。
- ・田原市内に地場の製造業がないことに非常に違和感を覚える。根本的に解決をしていくためには、道路整備が必要だと感じる。
- ・田原市にはすばらしい農産物や太平洋ロングビーチ等の観光資源があるが、地域外の人に情報が届いていない。PR不足である。
- ・今の若者はカード支払いで生活するのが当たり前であるが、市内でカード支払いができる店舗が少ない。細かな点かもしれないが大切なことであり、それを改善すれば雇用創造や定住につながると思う。
- ・渥美半島のリゾート化を推進し、拠点ごとの魅力を活かした集客を考えていきたい。例えば、田原地域については街（利便性）、渥美地域は農業と漁業、赤羽根地域は漁業とサーフィンなど。同時に、1年間集客できる魅力作りが必要だと考えている。
- ・臨海部の従業員は全体の6割ぐらいが豊橋市に定住している。理由は子どもの教育の問題であり、高校の選択に制限があること。また、朝晩の渋滞の中で通勤しているが、これが産業の発展に支障がある。特に国道259号線の整備が必要だと感じている。
- ・臨海部に大企業がありながら、地元の企業が下請けとして事業をしているのが極端に少ない。
- ・臨海部は岸壁を整備したが、航路が浅い。マイナス10mにすれば企業が魅力を感じて立地を検討するのではないかと感じている。豊橋市の発展は港の発展があつてこそだと思うので、田原市も港の発展を真剣に考える必要があると感じている。
- ・農産物のブランド化については、田原市から出荷されれば愛知県産との表示になってしまうので、力を入れなければ難しいと感じる。

2) 定住・移住促進について

- ・農業も商業も作れば売れる時代ではなくなってきた。お客さんや地域が喜ぶことを通じて農家等の生産者がその仕事に誇りを持てるように教育をしていく必要がある。ただ人口を増やすことを考えるのではなく、そのような教育等により、結果的に人口増加につながるように考えるのが良いであろう。
- ・サーファー等の移住案件が増えてきた場合に対応できるよう、土地利用に関する規制緩和をどのように田原市の計画に落とし込んでいくかは検討していく必要がある。
- ・田原市に愛着のない人が田原市に定住を考えるよう土地の値段を安くするなど目先の利便性も大切な視点だと思う。
- ・伊良湖ビューホテル近隣で住まいを探した際に、アパート数が少ないこと、家賃が高いこと等が課題であった。空き家も探したが、利用できそうな空き家は見つからなかった。空き家については、外から来る人が住みやすい空き家に絞って施策を考える方が良いと思う。

3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望実現について

- ・未婚化、晩婚化を解消するために行っている既存の婚活イベントでは多くの女性を集めることが難しくなってくる。各団体、市内の企業の方たちと連携を図りながら、婚活イベントの開催、多くの出会いの場を提供していきたいと思う。
- ・市民館で実施している児童クラブや、小さな子どもを持つ親が子どもを遊ばせるすくすくルームのような活動は、働く人や若い世代の方を助けるものであるため、行政からも支援をお願いしたい。
- ・医療体制の充実を図るための施策として新規開業の促進とあるが、それは非常に難しいと実感している。医療体制の整備が遅れており、残念である。
- ・場所や人材が必要になるなど課題もあるが、外国人の方々の居場所となる楽しい場所を作ることが今後必要だと考えている。

4) 地域の魅力・住みよさの向上について

- ・現状の道路では街中に入りにくいと感じている。アクセスを良くすること、蔵王山に来る観光客を街中の散策につなげること、商人塾の活用等も含めて、外から人を呼び込めるようにしていきたい。
- ・田原市内には様々なイベントがあり、特に毎年9月の田原祭り（五町の祭礼）については、山車や打ち上げ花火で非常ににぎわう。近年では豊橋近郊から渥美線を利用して来場する人が増えている。もっと多くの方に宣伝してお祭りを楽しんでもらい、田原市は住みやすい、楽しいという行事を広げていければ良いと考える。
- ・老後の住まいとして考えた時に田原市は魅力的である。今は若い人を増やしたいかもしれないが、60歳を過ぎたアクティブシニアの人たちが集まって農業をする団体のようなものがあったら良いのではと思う。